

教えて！ さめじま先生

特別編

歯の健康について大切なことを
さめじま先生が毎回分かりやすく解説。
一生つき合っていく「歯」のことをしっかり考えてみよう！

※プロケード偶数月号掲載



教えてくれる先生

歯科さめじま
主任歯科技工士
高山さん

歯科医とのコミュニケーションを円滑に行い、質の高い歯の修復物製作をスムーズに行うため、院内に歯科技工士が存在する重要性を教えてください。

今月のテーマ

なぜ院内歯科技工士なのか

主任歯科技工士へのインタビューで分かりやすく解説

歯科医や歯科衛生士などと比べると、あまり馴染みのない「歯科技工士」という職業。今回はそんな歯科技工士の中でも、歯科医院内で働く歯科技工士の方取材してきました。

インタビュー 歯科さめじま 主任歯科技工士 高山さん

歯はオートクチュール

院内歯科技工士の大きな特徴は、患者さんの顔を直接見れる、ということなんです。外注で仕事を受ける歯科技工士の多くは、医師からの情報のみで歯の修復物を作り上げます。もちろん外注でも、確立された技術で非常に細かな調整をするのですが、私たちは患者さんを直接見ることで、よりその人のクセや、上下歯の噛み合わせ

などをその場で随時知ることができ、スムーズかつ的確な調整が可能となります。歯の形は万人が異なる必要があります。口の中はほんのちよつとずれですぐに違和感を覚えてしまいます。そういった細かい作業を、院内にいる私たちはスムーズに行うことができます。

医師とのスムーズな連携

また歯科医との連携においても、院内にいることで効率的に行うことができます。当院では特に、全スタッフの情報共有を徹底しており、各患者さんの細かい情報を共有する仕組みがあります。通常、医師

チーム医療の実現

が歯科技工士に発注する際は、ある程度まとめた情報を共有するのですが、院内にすることで細かな情報の伝達や、製作の指示が伝わりやすく、製作から提供までをスピーディーに行うことができます。

「鮫島院長」 院内歯科技工士に かける想い

当院では、開業当初より院内に歯科技工士を在籍させてきました。これにより、ドクターや

歯科衛生士の意向を反映した歯の修復物の製作が可能となります。そして、技工士と患者さんの直接のコミュニケーションも密に行うことができますので、ドクターの指示のもと衛生士と共同で前歯の審美的回復を行うことや、かみ合わせの修正なども即時に対応でき、より一人一人の患者さんに合ったものに近づけていくことができます。その場で調整が可能ならぬ、入れ歯や仮歯などの応急処置はもろろんの事、すべての歯の修復物の製作から修理、メンテナンスまでを一括して行っています。近年では単独の修復物の製作にあたっては、3D自動切削機（セレック）の導入により当日での仕上げも可能となりました。このように、情報共有が不可欠なチーム医療の実現という点においても院内技工士は無くてはならない存在なのです。

院内に歯科技工士がいることは、表面的な応対だけではない、本来の意味でのホスピタリティのひとつだと考えています。

TOPICS

歯科技工士とは？

入れ歯、さし歯、冠（クラウン）などの製作やメンテナンスに携わる、歯科医療に欠かせない存在の医療技術者。通常、歯科医師の指示で歯の修復物や冠を製作する。主に歯科技工所と呼ばれる工場（医院からの依頼を受けて製作する歯科技工士と、病院や歯科医院内に勤める歯科技工士がいる。



▲歯科技工士の技工室



最新の歯科用機器「セレック」は、3D光学撮影された歯をコンピューターに読み込み、そこで歯の修復物を作成することで、型取りをせずに歯を削り出すことが可能。セラミックで作成するため、金属アレルギーや銀歯が気になる人にも利用できる。



▲歯科さめじまでは、その存在を知ってもらうため、入り口付近に歯科技工士の作業スペースがあり、実際の仕事を覗くことができる。



歯科さめじま

☎045-823-4181

③ 戸塚区品濃町563ネオポストキワV2F
東戸塚駅徒歩8分 駐車場あり

④ 9:30～18:30（昼休憩なし）
土曜は17:00まで

⑤ 日曜、祝日
※ホームページも是非ご覧ください。

HP: <http://samejimahdc.jp>

